

# これからの管理と コマツナの栽培

大西 康之  
農営課  
指導員

# いきいき 菜園生活



梅雨時期を迎えました。  
総じて湿害に弱い夏野菜のほ場では、  
水が溜まって根や樹勢が弱まらない  
よう排水溝を点検しましょう。



企画農課  
大西 康之

## これからの管理

中耕は、作物が生育する途中に株周りの地表面の土を軽く耕し、降雨によって固くしまった土中に酸素を供給したり、追肥の吸収を助けたら、雑草の芽を出させないようにする作業です。

また、土寄せはうねの両端の土を作物の株元に寄せ、根の張りを助けたり作物の倒伏を防ぐ作業です。

### ◆中耕・土寄せ

また、稲ワラや麦ワラによる敷きワラの効果は、①土の水分を保持する ②土のしまりを防止すること ③土砂のはね返りを少なくすること ④土砂のはね返りをなくし病気にかかりにくくする ⑤雑草の発生を防止することなどがあります。

ポリフィルムを利用したマルチングは地表面に密着させてうねに敷き、フィルムに穴を開け、作物の地表面を露出させて使用します。

マルチングの効果は、①土の水分を保持する ②土のしまりを防止する ③肥料の流亡を少なくする ④土砂のはね返りをなくし病気にかかりにくくする ⑤雑草の発生を防止することなどがあります。

### ◆マルチング・敷きワラ

本葉1〜2枚目の頃から、密生しているところから間引いて、最終は5〜6センチの間隔となるように行います。

### ◆間引き

その後は、発芽するまで寒冷紗などで覆い、雨でたたかかれたの発芽不良を防ぎます。

コマツナは、発芽がよいので厚まきにならないように注意し、2センチぐらいの間隔となるよう4条にまき、薄く覆土します。土の表面が乾いている場合は、軽くかん水してから行います。

### ◆種まき

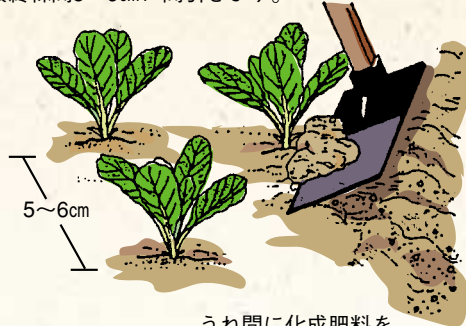
種まきの2週間前に、10平方メートル当たり堆肥20キロ、苦土石灰15キロ、化成肥料1キロを目安に施用し、うね幅は120センチで高めにうねを立て、うねの表面を平らにならしておきます。

### ◆畑の準備

## コマツナの栽培

コマツナは、これからの時期でも栽培が比較的容易ですが、生育が早いのでこまめな種まきを心掛けましょう。

最終株間5〜6cmに間引きます。



うね間に化成肥料をまいて軽く耕します。

### ◆管理

気温の上昇を和らげるとともに、防虫対策も兼ねて、発芽後は寒冷紗をトンネル掛けにします。

### ◆収穫

草丈が20センチぐらいになったら、順次収穫します。

収穫は、コマツナ自体の温度が低い朝に行う方が鮮度が保てます。

## コマツナの栽培